

もろさわようこそさん
生誕100年を祝して

「嫁に行かず勉強したい女は非国民」—もろさわさんが、20歳の時に言われたことばです。政府の人口政策を受けて、長野県では男性が25歳、女性は21歳までに結婚することが推奨された時代。今の私たちが自然に持つ多様な価値観は、ほんの80年前には、当たり前ではありませんでした。

「なぜ、生きなければならないのか。」思い悩む自らの足元を照らすつもりで書いた文章がきっかけで、女性史を研究し活動する道に進んだもろさわさん。厳しくも温かいまなざしで、道を開いた先輩、同輩、そして若い人たちにメッセージを出し続けました。

「泣いたり怒ったり、痛みを感じたりするのは、生きているということじゃないかしら。生きている限りは自分を新しくしていかなきゃ。一人一人が自分を新しくしていくときが、歴史が新しくなるときだと思う」

熱く語られることばは、色あせることなく、今を生きる私たちの足元をも照らしてくれるようです。

その声に、耳を傾けてみませんか？

県立長野図書館長 森 いづみ